

五重塔塑像

五階建ての塔の基部には、711年に遡る像群が四方に設けられた洞窟と思われる空間に安置されている。その塑像の四つの場面は、東側では維摩居士が、仏教の知恵の神である文殊菩薩と問答を行っている。北側では、仏陀がこの世界から次の世界へと移り、彼の涅槃への道において弟子たちが嘆き悲しんでいる。よく見ると、彼の弟子の苦悩に満ちた顔と、仏陀の脈をとる医者（阿育王）の姿も見える。西側は、仏陀の遺骨の分割を示している。彼の遺骨は、約2,500年前に亡くなった後、彼の信者に配布されたと伝えられている。背景は、彼の火葬を象徴している。南側では、未来の仏、マイトレーヤ（日本語では弥勒菩薩）が説法を行っている。